

経済同友

3

March 2013
No.754

Contents

■特集	
全国経済同友会との連携・活動 全国経済同友会代表幹事 円卓会議(福島開催)と 北海道・九州での活動報告	02
■Close-up提言	
アフリカ委員会 提言 関山 護 委員長 TICAD Vを契機にアフリカの成長に 向けた戦略的コミットメントを	09
金融問題プロジェクト・チーム 提言 前原 金一 委員長 目利き力強化と原点への回帰で 地域金融機関の可能性を引き出す	11
■Doyukai Report	
震災復興委員会 「震災復興の現状と課題 —復興の加速に向けて—」 根本 匠 氏 復興大臣・福島原発事故再生総括担当	13
被災地出張授業 「社会人への入り口」 浦野 光人 元副代表幹事/ニチレイ 取締役会長	15
■Seminar	
第1206回 会員セミナー 「Happy People Live Longer —ポジティブ心理学のすすめ—」 坪田 一男 氏 慶應義塾大学医学部 教授	17
第1207回 会員セミナー 「インド経済の展望と日本企業の可能性」 内川 秀二 氏 日本貿易振興機構 (JETRO) アジア経済研究所 研究支援部長	18
■Column	
巻頭言 新浪 剛史 「新蘭学ノススメ」	01
リレートーク 鈴木 喜輝 「心が素になる瞬間」	19
TOKYO2020 夢の力 福原 愛 氏 「子どもたちの夢へとつながるオリンピック」	20
私の思い出写真館 野木森 雅郁 「夏のパリの思い出」	22
新入会員紹介	21

今月の表紙:世界の文様シリーズ

【パキスタン・民族衣装の花柄】

白い花はジャスミン。民族衣装はシャルワール・カミーズといいます。モヘンジョダロは仏教遺跡ですが、文化はイスラム文化です。

巻頭言

副代表幹事
農業改革委員会 委員長
東京オリンピック・パラリンピック招致推進 PT 委員長

新浪 剛史

ローソン
取締役社長 CEO



「新蘭学ノススメ」

江戸時代の鎖国当時、日本は「蘭学」としてオランダから西洋文化と技術を学び取り入れた。閉塞感を抱える今の日本は、もう一度、400年前と同様に「新蘭学」を学ぶべきではないか。現在のオランダは、農業、労働、教育、経済等といった多分野で改革が成功し注目すべき成長を遂げている。そして、何よりも国民は高い生活水準を享受している。

例えば、オランダの農業である。農業条件が不利なのに、農業貿易では世界で最も黒字を計上している世界最強の農業国である。オランダ農業は、高付加価値なものに特化し、「稼ぐ農業」を実践しており、世界最高水準の生産性を誇る。バイオ技術を用いた品種改良から施設園芸、省エネ、ICTなどを活用して強い農業を実践しているのだ。しかし、これらは日本こそが得意とする分野である。オランダに学び、日本の農業を稼げる農業に変革していくことが可能ではないだろうか。

次に、オランダの労働改革である。「オランダ病」といわれるくらいの深刻な経済状態(産業低迷、失業率増大、財政赤字)から「オランダの奇跡」といわれる復活を遂げた。1990年代に至るまで、正社員に手厚い保障がなされ、正規と非正規の格差が広がり、失業率も上昇していた。そこで、労働法の改正や制度改革を行うなどして、“オランダ・モデル”といわれる世界初のパートタイム経済(ワーク・シェアリング)の国をつくり上げた。結果、企業収益が改善し、失業率も下がったのである。

さらに、教育である。子ども一人ひとりの能力・希望によって、進路を早い段階から意識させ、それに合った学校を選ぶことができる。しかも、「やり直しのきくシステム」である。子どもの自主・自立を促す。オランダは国として、親がどのように家庭と仕事を両立させるか、その選択肢を増やすことで、子どもや家庭の幸福感を高めることに成功した。

オランダの成功事例を謙虚に学び、応用等する価値は大いにあると思う。今の日本、「新蘭学」としてオランダから学ぶことを提唱したい。